

# 米づくり情報 (NO. 5)

令和3年7月13日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

## 1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
6	6	24.0	24.3	27.7	30.1	21.1	20.5	95.6	1.5	14.1	27.7
7	1	24.8	26.3	28.4	29.5	22.0	24.1	97.6	26.0	15.6	11.4
	2	25.5	27.0	29.2	29.2	22.6	25.4	84.3	59.5	19.2	2.2
	3	26.1	-	30.0	-	23.1	-	59.0	-	23.5	-
	4	26.7	-	30.9	-	23.5	-	42.4	-	28.3	-
	5	27.2	-	31.6	-	23.9	-	39.1	-	32.3	-

【6月6半旬～7月2半旬の気象概況】

- 平均気温は、平年と日照時間比較し1～1.5℃程度高く推移した。
- 日照時間は、平年の84%とやや少ない。
- 降水量は、平年の10%と程度とかなり少ない。

## 2 生育状況 (7月13日)

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	主稈出葉数 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/2移植 東山代町脇野	本年値	75.9	406	10.5	43.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 草丈は、平年並み</li> <li>• 莖数は、平年並み</li> <li>• 主稈出葉数は、平年並み</li> <li>• 葉色は平年並み</li> </ul>
	平年値	73.9	403	10.8	43.6	
	平年比	103	101	-0.3	+0.3	
ヒノヒカリ 6/20移植 松浦町桃川	本年値	42.5	229	8.4	43.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 草丈は、平年より高い</li> <li>• 莖数は、平年より少ない</li> <li>• 主稈出葉数は、平年並み</li> <li>• 葉色は平年よりやや濃い</li> </ul>
	平年値	35.2	266	8.0	41.7	
	平年比	121	86	+0.4	+2.1	
たんぼの夢 6/15移植 松浦町桃川	本年値	46.2	296	9.4	47.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 草丈は、平年より高い</li> <li>• 莖数は、平年より多い</li> <li>• 主稈出葉数は、平年より多い</li> <li>• 葉色は、平年より濃い</li> </ul>
	平年値	33.1	252	8.3	43.7	
	平年比	140	117	+1.1	+4.1	

(耕種概要)

※夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。

### 3 今後の管理

#### 1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- 穂孕期を迎えている。
- 穂孕期から穂揃期にかけては、イネの用水要求度が高い時期であるため水がきれないように湛水状態を保つ。
- 茎数が多く取れた圃場や葉色が濃い圃場は、「いもち病」などの病気が発生しやすくなるため注意深く観察し、病斑が確認された場合は速やかに防除を実施する。

#### 2) 普通期水稻「夢しずく」

##### 【6月上旬移植】

- まもなく幼穂形成期を迎える。
- 中干しは終了し間断灌水に移行する。
- 幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、下の表を参照し穂肥を施用する。穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない。

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg / 10a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22~20日前	1 mm	3.0	18 kg
<b>73cm以下</b>	<b>3.0~3.5</b>	<b>38以下</b>	<b>20~18日前</b>	<b>2 mm</b>	<b>3.0</b>	<b>18 kg</b>
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73~79cm	3.0~3.5	38以下	20~18日前	2 mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原 則 と し て 施 用 し な い					

※ 草丈は幼穂の伸長程度より幼穂形成期（幼穂長 1mm）を基点に、前後 1 日当たり 1 cm 増減する。

※ 止葉が抽出し終わった後など、遅い穂肥は施用しない。

※BB602の施用量は栽培ごよみに準じている。

##### 【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量が確認出来たら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。

##### 【6月中旬移植】

- 中干しの時期を迎えている。
- 有効茎（1 株当たり 20 本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- 中干しは約 1 週間、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。なお、強い中干しとなった圃場（手が入るほどの亀裂がある）では、一端通水し、根をならしてから間断灌水に移行する。

### 3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

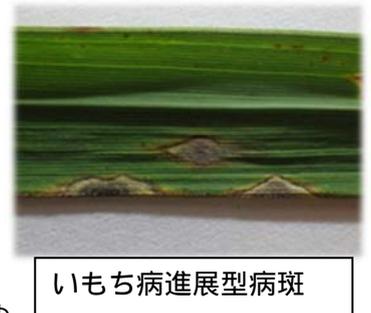
- 分けつ期を迎えている。水管理は浅水管理とし、分けつ促進に努める。
- ガスわき対策として移植後15日、25日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。
- 移植後に湛水状態が保てず、除草剤処理後の水管理が徹底できなかった圃場では、ヒエ、コナギやホタルイ等の雑草の発生が散見される。速やかに、中後期除草剤等による防除を徹底する。

### 4) 共通

#### ○病害虫防除

##### (いもち病)

- 7月7日までのBLASTAM情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では7月17日、18日に葉いもちの感染好適条件が観測されている（好適条件が観測された1週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。今後発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト粒剤等で速やかに防除を行う。
- 圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」の温床となるためすみやかに除去する。



いもち病進展型病斑

##### (ウンカ類)

- 5月11日に佐賀県嬉野市で1頭、7月1日に佐賀県佐賀市で1頭のトビイロウンカの飛来が確認されており(次ページの表参照)、この飛来波の今後の発生予測はp6のとおりである(発生予測図は7月7日更新)。
- 今後の飛来状況により、発生予測図は随時更新される。
- 防除時期については、今後の飛来状況や圃場条件(移植時期や品種、圃場の場所等)によってウンカ類の発生量が異なるため、注意深く圃場を観察する。

#### 【ウンカ類調査結果(黒川は10株、他は20株はらい落とし)】(調査日:7/13)

品種	地域	移植日	トビイロウンカ		セジロウンカ		ヒメトビウンカ	
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
夢しずく	黒川	5/14	0	0	0	1	0	0
	東山代	6/1	0	0	1	2	0	0
ヒノヒカリ	松浦	6/20	0	0	9	0	0	0
たんぼの夢	松浦	6/15	0	0	5	1	0	0

判別不能の若齢幼虫はセジロウンカとしてカウント

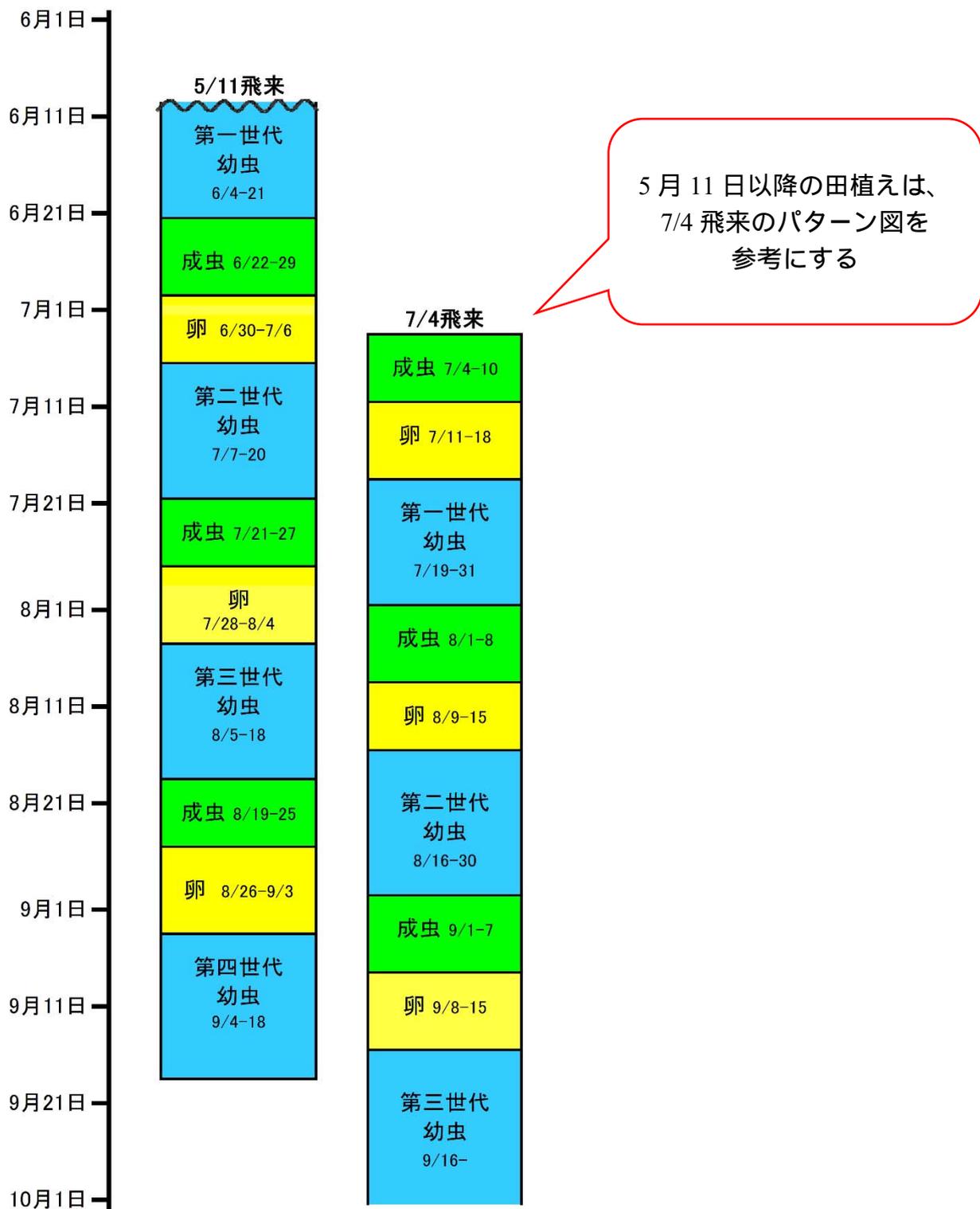


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第1版、2021年7月7日作成)

1. 5月11日、7月4日の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月7日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本種の発生量は異なる。
3. 今後の飛来状況および気象経過に応じて、**本図は随時、更新**するので、**最新情報**は、農業技術防除センターの[ホームページ](#)で確認する。

# 令和3年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業改良普及センター

